宮城県東松島市認知症支援事業

○北川公路[1]　石垣仁子[2]（非会員）　成澤孝子[3]（非会員）　香山明美[1]（非会員）
（[1]東北文化学園大学　[2]東松島市中部地域包括支援センター　[3]認知症カフェ参加者　）

キーワード：認知症カフェ　カフェ参加者　保健師　作業療法士

東日本大震災以降，宮城県東松島市と東北文化学園大学（以下,大学）は応急仮設団地や集団移転団地において行事や地域活動のボランティアだけではなく，学生自らが見守りのしくみを提案するなどコミュニティ醸成のための支援活動などを続けている。また，東松島市は2016年度に医療福祉サービス復興再生ビジョンを策定するにあたり大学教職員を学識経験者として選任し，これまで相互に協力しあう関係を築いている。このようななか包括連携に関する協定を締結することで，両者が有する知的人的および物的資源を活用した連携の強化を図り，行政課題への大学の参画による地域振興や人材育成の実現，大学の地域貢献活動の拡充など双方にとって有益で継続性のある連携を進めている。具体的な事業は，保健福祉事業の推進，東松島市フィールドとして大学教職員の教育研究活動の推進と成果の還元，大学及び東松島市が連携・協働し東松島市民を対象にしたイベントの開催，東松島市内の医療・保健福祉関連事業従事者のスキルアップのための研修機能支援などである。

健康日本21においては、健康を支え、守るための環境の整備の一環として「国民が主体的に行う健康づくりの取り組み」が強調されている。また，介護予防においても「住民自身が主体的に運営する活動」による地域づくりの重要性が指摘されている。しかしながら，住民主体の活動を促し地域づくり繋げていくのは難しい課題になっている。望ましい住民主体の活動を促し，育み，継続していくことが重要な課題になっている。

以上のことから，宮城県東松島市と大学において包括連携に関する協定を締結しているなかでの事業であること，大学研究者も関りを持ちながら，そこに住まう方々と行政が一体となり取り組んできた「認知症カフェ」について紹介し，地域づくりの視点等から本シンポジウムでは議論を深めたいと考えている。

【認知症カフェ】

2012年に認知症カフェが日本に紹介され各地で実践が多くされてきている。認知症カフェは「新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）で示され増加してきている。日本ではオランダを起源とした欧米諸国のアルルハイマーカフェを手本として始まっている。1997年にオランダで始まったアルツハイマーカフェは，認知症のひと，家族や知人，地域住民，専門職が同じ場で同じ時間を共有するという枠組みで行われている。運営基準があり，それに基づき運営されること，訪問者が一定数いることが認められるとアルツハイマーカフェとして認定される仕組みになっている。日本において前述の新オレンジプランで認知症のひとやその家族が，地域のひとや専門家と相互に情報を共有し，お互いに理解し合う認知症カフェ等の設置を推進すること，地域支援推進員が企画・運営を担うことが明記されている。しかしながら、明確な基準を設けることなく始まっている。設置基準や内容などの定めはなく，名称も自由，活動を始めることもやめることも自由な状態であるが、地域における認知症のケアの一助になっている。

認知症カフェの始まりは遅かったものの世界でもっとも認知症カフェが多い国になっているが，現在，多くの認知症カフェは継続することに苦労しているというケースもある。

【話題提供】

指定介護予防支援事業所　東松島市中部地域包括支援センター保健師・認知症地域支援推進員　石垣仁子氏

東松島市の地理環境，人口動態，高齢化の状況などを説明する。そのなかでも要支援，要介護者数が増加傾向にあることから，予防の視点を踏まえた全世代の健康管理が重要になっている。東松島市の認知症カフェは，認知症のひとやご家族・地域住民や専門職などが自由に集い，認知症の症状の悪化予防，家族の介護負担の軽減などをはかっていくことを目的としている。2017年6月に認知症カフェをスタートし，2018年4月から正式に稼働している。スタッフには，包括支援センターのメンバー，市役所保健師，市内事業所のケアマネージャー，福祉用具のメーカーの方々の協力で対応していた。これらにより，参加者同士のつながるきっかけになった。認知症カフェのはじめから現在の動向を行政の立場から話題提供する。

【話題提供】

認知症カフェ参加者　成澤孝子氏

認知症カフェに参加するきっかけとなったのは介護支援専門員の訪問指導になる。実際に参加すると和やかななかに自身にとって有意義な講座を受講し新たな知識を獲得している。その中で，認知症患者の様子の寸劇をみて認知症を発症するとどのようなことになるのかを学ばれている。また，薬の服用の仕方について薬剤師からの指導を受けたことや終活の準備の講座を受講されている。参加している理由は，人生100年時代といわれるが少子化，核家族化となっている現実をみたときに「認知症になってはいけない」「歩けなくなってはいけない」と強く思っているためである。さらに,自身が学んでいることを他の多くの方々にもと考え，女性参加者を募り，新たな取り組みをしている。

認知症カフェに参加することになったきっかけから現在の認知症カフェへの関わり，さらなる発展について話題提供をする。

【話題提供】

東北文化学園大学医療福祉学部　香山明美氏（作業療法士）

東松島市と大学との連携協定に関連すること，東松島市の認知症関連事業とその特徴やそれに対するリハビリテーション学科作業療法学専攻の認知症プロジェクトの関わりについて紹介をする。また，認知症関連事業を通してみえてきた東松島市と作業療法学専攻認知症プロジェクトの課題について大学教員，作業療法士の立場から話題提供をする。

【指定討論】

東北文化学園大学医療福祉学部　北川公路

東松島市に住まう方々と行政が一体となり取りくんできた認知症カフェについて専門職（大学教員）がどのように関わり支援することができるのか，どのように大学の資源を活用して地域づくりの視点等からも議論を深めたいと考えている。

（きたがわ　こうじ・いしがき　じんこ・
なりさわ　たかこ・かやま　あけみ）